

平成 28年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 1 回 療育 部会	参加者数	44 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター あいなちゃんるーむ1
	日時	平成 28 年 6 月 1 日 (水) 15:00 ~ 17:00				
主 テ ー マ	<p>1 上伊那版情報共有ファイル「成長ダイアリー」について伊那市の進行状況</p> <p>2 上伊那圏域特別支援教育連携協議会にについて</p> <p>3 「成長ダイアリー」についての学習会</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>○部会長より 「成長ダイアリー」についてなかなか周知が広がらない。市町村の窓口に置くだけでなく、病院窓口においていただくとありがたい。 5月15日朝日新聞の切り抜きより。「この記事で言っているカルテは学校で管理」というもの。今までの引継ぎカルテと一緒に意味合いを持つ。本人や保護者の生活を豊かにするのが成長ダイアリー。各市町村のスタートは今ひとつだが、伊那市では採用を決めている。</p> <p>○伊那市の進行状況(子ども相談室の田畑さんより)</p> <p>ア 今までの経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月よりスタート ・平成28年5月8日 私立幼稚園へ説明 ・平成28年5月16日 保育園への説明会 <p>他、特別支援co会議で説明会を開催。プロジェクト委員会2回開催。 ・伊那市で配る為のチラシを付ける。どこに置いてあるか、有効な使い方について、書き方など載せています。</p> <p>イ 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「成長の記録」のページの様式を市で提出する書類の書式に採用して共有する予定。「成長ダイアリー」を使うことでより便利になるように今後も書類の書式の統一を検討する。 ・小、中学校では12月の保護者懇談会で保護者に周知しながら進めていく予定。 <p>2 について(特支連携協議会事務局 塩入先生より)</p> <p>上伊那圏域特別支援教育連携協議会が発足し、5月20日に総会が開催された。支障者間で連携をスムーズにとれるように連携リストを作成した。「私たちの連絡先も」という希望ありましたら、声をかけていただけたらとのこと。電話でのやり取りは、時間の縛りがあり難しいので、メールアドレスを載せていて活用して欲しいとのこと。7月30日に上伊那圏域サポート会議があるので是非参加をお願いしたい。</p> <p>3 「成長ダイアリー」の学習会</p> <p>○「児童発達支援事業所」のページを使って書き方のグループワークを行った。</p> <p>ア グループ発表で出された意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主観的にならず、具体的に、誰が見ても分かる文章で書くと良いのではないかと。 ・言葉使いは慎重に選ばなければと感じました。 ・家での姿はどうか、支援する場所での姿はどうか、それぞれの様子を書いてもいいのではないかと。 ・文章は、保護者か支援者か誰が書いたのか分かるようにすると良いのではないかと。 ・どのタイミングで書くのか？(4月に確認するなど、期間を決めると良いのではないかと) ・課題のみでなく、その課題に対してどういった手立てをしてどうなったかという記述があると、後に見る本人、保護者、支障者にとって大切な記録になっていくのではないかと。 ・外国籍の保護者の方に向けた様式もあると便利だなと感じる。(英語やポルトガル語版) ・支障者間の中でも既存の引継ぎファイルはそれぞれである。今はそれぞれなので記録業務が大変となっている。せっかく出来たので一本化できるような動きが今後出来ればありがたい。 ・ファイルを持つことに抵抗を感じる、持ちたくない保護者もいらっしゃる。どういったアプローチをしていったらよいか？ <p>→生きにくい、困っている時に、「こんなのあるけどどう？」と提案してみたらどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間で取り交わされているカルテで保護者へマル秘な事項もある。しかし、このファイルを作る際には、それぞれの姿を確認しながら一緒に作っていくことが良いのではないかと。信頼関係を持ちながら作っていけばマル秘はなくなっていくのではないかと。 					
ま と め	<p>・「成長ダイアリー」一本化したら使いやすくなる意見は多く出た。しかしいずれ文科省が作っているカルテが引き継がれていく。マル秘の情報が引き継がれていく。それとは別に、本人、保護者が幸せに生きていく為のものであり、生きた証が主旨。ぜひ広がっていくようご協力お願いします。</p>					
次 回	<p>・支援している現場での課題を取り上げて協議していく予定です。</p> <p>・「成長ダイアリー」の周知や進捗状況等、今後も検討していく予定です。</p>					

会議	部会名	第 2 回 療育 部会	参加者数	34 人	会場	まちづくりセンター
	日時	平成 28 年 7 月 14 日 (木) 10:00 ~ 12:00				
主 テ ー マ	成長ダイアリーについて、ご本人やご家族への説明					
主 な 意 見 な ど	議題	①上伊那版情報共有ファイル「成長ダイアリー」について ②「成長ダイアリー」を利用し始める保護者の方のお話(伊那市) ③その他 学童、放課後等デイサービスの現状について				
	配布資料	成長ダイアリーの縮小版				
	議事	①について <ul style="list-style-type: none"> ・上伊那に住む方に共通して利用してほしい。 ・連携、インクルーシブな上伊那の実現を目指したい。 ②について <ul style="list-style-type: none"> ・市長村の記録は市町村で管理され、保護者に残らない。ダイアリーはその記録が残せる。 ・福祉サービス、医療等の利用を始める時に、毎回同じ説明をしなければいけない。役所でダイアリーが認識されると、そのような苦痛が軽減される。 ・将来、子どもに手渡した時、また親として振り返った時に、たくさんの人に支援さ 関わってもらった事に感謝ができる。 				
	意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那市:自分達で支援を求めて行けるように、ダイアリーの見本、チラシを子育て支援課、障害福祉課の窓口配布した。保健師、園長、副園長も理解しており、保護者の頑張りをつなげられるようにしたい。 ・辰野町:成長ダイアリーの理解を求め、広げていける様、子育て支援センターや保健福祉センターに、見本やチラシを置くことを考えている。 ・伊那中央病院OT:6月末に小児科の医師に説明。初診の方に対し、発達問診票をダイアリーに変えて導入する。 リハビリの記録を記入し、連絡帳という形にしていたものを、成長ダイアリーに挟み込み、利用できるように検討している。 チラシに「障害」という文字があるため、病院独自のチラシを作成した方がよいのか?という点が課題である。 電子カルテにダイアリーの記録を残し、受診が中断しても、いつでも見られるよう検討していく。 				
	質 疑 応 答	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に受診した場合、ドクターに記入をお願いすると、料金がかかるのか?⇒伊那中央病院のリハビリ科の場合は料金はかからない。ドクターに確認して、リハビリ科で記入できる。 ・ケース会議等の記録は残せるか?⇒伊那中央病院では各々が記録しているが、統一したものはない。統一した書式のもので、残せるようにしていく必要性を感じた。今後検討していきたい。 ③について <ul style="list-style-type: none"> ・集団生活が苦手な子が学童を利用するのが、難しい。放課後等デイサービスを利用したいが、定員の関係や申請までに時間がかかり、すぐに利用できないという現実がある。 <p style="text-align: right;">以上</p>				
ま と め	成長ダイアリーの普及にあたり、色々な方からの意見を聞きながら、よりよい物ができるようにしていく					
次 回	未定	10月頃				

会議	部会名	第 4 回 療育 部会	参加者数	34 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 大会議室
	日時	平成 28 年 10 月 20 日 (木) 15:00 ~ 17:00				
主 テ ー マ	1 松本圏域発達障がいサポートマネージャー新保文彦氏による講演「義務教育後の支援に望むこと」 2 グループ討議 3 成長ダイアリーの進行状況報告					
主 な 意 見 な ど	1 松本圏域発達障がいサポートマネージャー新保文彦氏による講演「義務教育後の支援に望むこと」 <ol style="list-style-type: none"> ① 発達障がいサポートマネージャーについて <ul style="list-style-type: none"> ・「障がいは一生続くが支援は途切れる」ことが課題となり、サポートマネージャーが設置された。 ・社会と世間と家庭のつなぎ役として、継続して支援できる強みがある。 ② 20歳の人を支援したら見えてきたこと <ul style="list-style-type: none"> ・幼少期に発達障害に気付き、支援を受けられるかどうか、その人の一生に影響する。早期発見、早期療育が非常に重要。年を重ねると、それだけ障がいの受け入れに時間がかかる。 ・保護者との関係を切らさないためには、言葉遣いに注意が必要。障害名ではなく、特性をフォローするという視点で関わるのが大切。 ③ 福祉について、考え方の共通理解が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児・者は社会に必ず存在するため、社会全体でフォローする必要がある。それを形にしたのが福祉である。 ・啓発は大切。障がいを知っている人を少しでも増やすことで、社会の雰囲気は変わっていく。 ④ 将来の居場所、義務教育後はどうなるか <ul style="list-style-type: none"> ・学校卒業後に毎日行く場所(働く場所)があることが、心身ともに安定した生活につながる。 ・小中高の間に、将来に備えた準備としてできることは、 <ol style="list-style-type: none"> ① 自己理解(長所・短所、自分の障がい特性の理解) ② 自己効力感(意欲を貯蓄しておく) ③ 生活のリズムを整える ⑤ 企業人からの視点 <ul style="list-style-type: none"> ・企業への障がいの啓発は不十分。 ・企業現場で発達障がいの存在を伝え、サポートをしていく必要がある。 					
ま と め	・義務教育後から、支援が手薄になってしまうことの課題が共通認識となってきた。支援者同士が、互いの役割を知り、今ある資源を活用しながら、どう協力し合えるかが課題になってくる。					
次 回	・放課後等デイで行われている支援、学童保育の現状等を多くの支援者が知り、今後の支援の中でそれぞれが取り組めることを検討する。					

会議	部会名	第 5 回 療育 部会	参加者数	72 人	会場	伊那市まちづくりセンター 大会議室
	日時	平成 29 年 1 月 12 日 (木) 8:30 ~ 12:00				
主 テ ー マ	1 伊那市生涯学習課竹松係長より「伊那市の学童保育の現状について」 2 放課後等デイサービス事業所から事業の紹介 3 グループ討議					
主 な 意 見 な ど	1 伊那市生涯学習課竹松係長より「伊那市の学童保育の現状について」 ・学童クラブの目的、設置と経過についての説明。 ・伊那市の利用者の推移について6年間で急激に増えているが、40人に対して支援員の配置が2人以上の配置となっており、平均の利用者数では基準は満たされているが、夏休みなどの長期休業では定員ギリギリのときもあり、余裕を持った活用をすることが課題となっている。 ・学童クラブを利用している児童のうち、配慮を要する児童が1割程度おり、指導員が苦慮するケースもある。学童だけで親御さんや学校と情報共有が難しいところがあり、今後多くの関係団体と情報交換をしながら行っていく必要がある。 2 放課後等デイサービス事業所から事業の紹介 ・子ども発達支援教室ステージアイより ・NPO法人CoCo辰野事業所より ・みらい福祉会より 3 質疑応答 ・家庭支援のための保護者との連携について、どのようにそれぞれの放課後等児童デイの事業所で工夫しているかについての質問。支援会議や検査結果のフィードバック、利用した日の記録や土日のイベントに両親も参加をしてもらうなどの工夫をしている。 4 グループ討議 ・放課後等児童デイサービス事業者、学童クラブ指導員、教員、行政、医療、保護者、相談支援員がグループに分かれて話し合いを行った。学童クラブの指導員が多く参加されていたため、実際の日々の指導の課題や苦慮していることなどが話合われた。学童だけで解決できる問題ではなく、家庭や学校や行政や福祉と連携しながら進めていく事が必要であることが確認された。					
ま と め	感想として ・学童クラブと放課後等デイの現状を知ることができ、もっとそれぞれの機関との連携が必要であると					
次 回	年度が変わるが、成長ダイアリーの普及啓発とその利用の仕方についてや学童と放デイ等、今年度出てきた課題について引き続き検討をしていく。					